

平成27年度 大阪暁光高等学校 学校評価

1 めざす学校像

学園は1950年、高野山真言宗の末寺盛松寺の住職が戦後の混乱期にあって人間教育の重要性に思いを致し、宗祖弘法大師（空海）が平安時代初期に京都の東寺に綜芸種智院を開いた偉業に倣って創設された。

学園の目的は寄付行為第3条に「弘法大師の興学精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行うこと」と規定している。この規定にもとづいて高等学校並びに幼稚園を創設し、さらに1965年に短期大学を開設した。「弘法大師の興学精神」とは、教育を広く庶民に開くことを根本にすえながら、①教育環境がすぐれていること ②あらゆる学問を総合的に教え、人間教育を眼目とすること ③優れた教師を得ること ④教師と生徒の生活を保障すること の4点にまとめられる。

『人間教育』をめざすという根本精神は綜芸種智院の精神を継承しており、生徒一人ひとりを大切にす教育、一人ひとりの人間性を磨くことを中心にすえた教育を追求する。人間的に豊かな生活を送ることが圧迫されている現代、社会の主人公は物やお金や情報でなく『人間』であるとの考えを土台に、平和の下に命を育み、「人間尊重」の精神を根本にすえた教育の実現をめざす。

この教育理念のもと2013年に「五年一貫看護科」を開設し、患者中心の医療を実践できる「誠実で患者に寄り添える看護師養成」という職業教育を実践し、地域から期待、信頼され、将来は地元で働き貢献できる看護師養成をめざしている。

2 中期的目標

1. 歴史ある教育を貫き、「人間教育」を理念とする普通科の魅力を創出する教育実践を行う。
 - (1) 普通科改革委員会を充実させ、全教職員で討議し、新コースのカリキュラムを作成する。
 - 新コースの教育内容を全教職員が共有できるよう、委員会が中心になって討議をすすめる。
 - 医療・看護、教育、福祉について深く探究し、主権者としての力を育める教育創りをしていく。
 - (2) 「わかる授業」「疑問をもち、発見のある授業」「意見発表できる授業」をめざして授業改革に取り組む。
 - 時間割内の教科会議で現状を出し合い、生徒の実態を共有しながら互いの実践に学び合う。
 - 生徒が主体的に参加する授業づくりのための研修参加やミニ学習会を行う。
 - (3) 行事・学習活動は集団作りを軸にした生徒会活動の位置づけを大切にし、生徒たちの主体性を引き出す取り組みにする。
 - 生徒を主人公として、全ての行事を成功させるためのリーダーの育成に力を入れる。
 - 生徒の学習権を大切にし、学習意欲を引き出すとともに、高校で学ぶ意味を発見できる指導を展開する。
 - 全校集団づくりとクラス集団づくりをすすめ、人間の尊厳を大切にし、いじめをださない。
 - (4) 帝塚山学院大学・大阪千代田短期大学との恒常的な連携を推進する。
 - (5) 基本的人権に基づく社会的モラルを養い、民主的な人格形成をしていく生活指導をする。
 - 遅刻・欠席を減らす。
 - ケイタイ、スマホのマナーを身につけさせ、人との
 - 服装・頭髪の乱れを正す。
 - (6) 退学者「ゼロ」をめざす。
 - 保護者との連携・生徒の思いや躓きに寄り添った誠実で丁寧な生活指導をする。
 - 一人ひとりの高校で学ぶ意味を考えさせ、生き方に迫る生活指導をする。
2. 系統的で丁寧なキャリア教育を推進し、全ての生徒が希望する進路を実現できるようにする。
 - (1) 1年次からの学期に一回以上の面接指導で、自らの生き方の方向を考えさせる。
 - (2) 学力回復と向上をめざし、きめ細かいサポートをする。
 - 教科指導、生徒会活動の中で、地域・社会の課題を考えさせ、意欲関心を引き出す工夫をする。
 - 長期休暇中、日常の講習、放課後の勉強会など進路に応じた指導を丁寧にする。
 - (3) 保育実習など進路実現につながる多様な選択科目でサポートする。
 - (4) 英語検定、漢字検定など、より上級の資格取得をめざため、英語科がきめ細かな指導体制を整える。
 - (5) 大学の出前授業、大学訪問、卒業生やハローワークの講話など、豊かな生き方を知らせ、進路実現への道を考えさせる。
 - 大学、専門学校、施設など訪問し、進路に対するモチベーションを上げる。
 - 卒業生の講話を計画し、身近な先輩から学んで生き方を迫る。
 - 3年就職希望者には、ハローワークとの連携を強め、100%の進路決定を目指す。
 - (6) 丁寧な個別指導と保護者懇談により進路未決定者を減らす。
3. 「五年一貫制看護科」の充実した教育内容の創造
 - (1) 看護科3年間のシラバスの見直しと検討
 - (2) 看護専攻科スタートに向け、生徒たちの自覚を高める。
 - 他校に学び、「進級の手引き」「教務規程」を作成。
 - 現実に合わせて、生徒の成長発達が保障できる「規程」に改訂していく。
 - (3) 将来、医療現場でチームとして働くことを考え、集団活動を重視し、主体的に班行動ができるようにする。
 - 戴帽式を自分たちの力で成功させる取り組みにする。
 - 臨地実習において指導者、患者から学び、チームで互いに責任を果たせる関係をつくる練習を積む。
 - 行事・学習合宿・校外学習など、企画運営と当日のグループ行動について責任をもって考えさせ達成感をもたせる。
 - (4) 地域と連携した取組みを展開する。
 - (5) 三年次終了後の「スウェーデン海外研修」を成功させ、生徒たちの視野を広げ看護専攻科進級へのステップとする。
4. 併設短期大学と連携し、地域の中で育てていただき、役割を果たし社会貢献していく学園を創造していく。
5. クラブ活動の活性化

3. 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価の指標	総括・自己評価
普通科の魅力を生み出す人間教育の前進	<p>(1)普通科改革委員会が中心となり、新コースのカリキュラム決定。</p> <p>ア、教育顧問との研修 イ、全教員による改革の具体化を討議して決定</p> <p>(2)授業改革をする。</p> <p>ア、教科会議の充実 イ、生徒を主体的に参加させる授業作りのための研修参加</p> <p>(3)生徒会活動の発展</p> <p>ア、生徒を主人公として、全ての行事を成功させる。リーダー部の育成 イ、生徒の学習権を大切に、学習意欲を引き出すとともに、高校で学ぶ意味を発見できる指導をする。 ウ、全校集団作りとクラス集団作りをすすめる、いじめを出さない。</p> <p>(4)大学・短期大学との恒常的な連携を推進する。</p> <p>(5)基本的人権に基づく社会的モラルを養い、豊かな人格形成していく生活指導をする。</p> <p>ア、遅刻欠席を減らす。 イ、ケイタイ・スマホのマナーを身につけさせる。 ウ、服装・頭髪の乱れを正す。</p> <p>(6)退学者「ゼロ」をめざす。</p> <p>ア、保護者との連携と生徒への誠実な指導 イ、高校で学ぶ意味を考えさせ、生き方に迫る生活指導をする。</p>	<p>(1) 教育顧問福井先生を招き、学習会、フリートークを計画。職員会議・グループ討論・教科会議を経て、新コースを決定する。</p> <p>(2) ア、時間割に組み入れた週1回の教科会議に非常勤講師も参加して情報交換・共有をはかる。液晶の活用（短時間利用・写真やグラフ・図など）が進み、互いの実践に学びあい生徒の主体的授業参加の実践につなげる。 イ、夏期校内研究会にて「生徒が主体的に参加する授業」の実践報告をし、学び合う。</p> <p>(3) ア、体育大会、文化祭では生徒で構成された実行委員会を結成し、生徒の主体的な運営をする。 イ、家庭学習ノート・充実ノート・放課後の学習会の取り組みを進めることで、いじめのない、互いを大切にしよう生徒集団づくりをすすめる。授業の要求を聞きとる。 ウ、3年が全校の先頭に立ちリードし、1、2年は3年に学べるよう指導。リーダーの自覚と責任感を育てる。生徒の人間関係を的確につかむため、学年会議やブロック会議で報告し情報共有。いじめを未然に防ぐ。</p> <p>(4) 大学訪問、出前授業に取り組む。「総合学習」の高短連携授業を発展させる。</p> <p>(5) ア、遅刻欠席の多い生徒へハガキで保護者連絡し、きめ細かに面談する。 イ、ケイタイ・スマホはカバンに入れる指導の強化。「情報」の授業でマナーやトラブルについて学ぶ。 ウ、頭髪は、長期休暇明けと定期テスト、行事を節にして強化指導。服装は、学期に2回強化週間をもち、日常的な玄関指導を全教員体制で取り組む。</p> <p>(6) ア、保護者の苦悩に寄り添い、「共育」の姿勢で連携する。 イ、自己認識を育て、自己肯定感がもてる指導、将来の生き方を見つめ進路を見いだす指導をする。現代社会の状況を知らせ広い社会的視野で自己の生活と課題を考えさせる。</p>	<p>授業アンケートの満足度を70%とする。 (昨年60%)</p> <p>生徒会行事の満足度を90%以上にする。 (昨年92%)</p> <p>学校生活の振り返りで「成長感」もてる生徒を80%めざす。 (昨年78%)</p> <p>生活指導に対する指導内容や支援体制についての満足度60%以上にする。</p> <p>退学率7%以下を目指す。 (昨年7.5%)</p>	<p>(1) 人の命と生活を大切に考え、教育や人間発達について探求し人格の完成をめざす進学コースとして、「教育探究コース」と決定。新任教諭が委員会に入り、教育を語り主体的に討議できたことは大きな成果である。 魅力ある学園づくりのため、高校と短大で委員会を立ち上げ、高短連携で一貫教育していく「幼児教育コース」の設置を決定。 来年度はカリキュラムの中身を豊かに具体化することが課題。</p> <p>(2) 授業満足度 65% 教科差が大きい。教材が工夫され「わかる授業」を展開できている教科担当では満足度は高い。 あきらめ、学ぶことから逃げている生徒たちの学習意欲を引き出すための指導が課題。公開授業を計画できなかったので来年実施。</p> <p>(2) 体育大会満足度 94% 文化祭満足度 92% 成長感 95% 6月、体育大会実行委員会が、種目の検討など生徒の声を反映させ、全校が競技と応援の部ともに協力・共同して創り上げたという達成感と感動を味わうことができ成功。1年から3年が合同で行う「学習会」は、1年にとっては3年から勉強の仕方や感想の書き方を学ぶ場となった。昨年に続き、当日の頭髪が課題となった。 10月の文化祭は、展示発表・模擬店で生徒が楽しく参加できる文化祭にできた。人権、社会、文学平和などテーマをもって学ぶことのできる学習会を企画し、フィールドワークにでかけたり、他者から多くを真剣に学んだりして、自らの生活から問題意識をもって考えた。ビデオ上映、展示の仕方が工夫された。しかし、クラス全体の「読む・書く」学習の到達点が低い。また、当日の模擬店にエネルギーを割き、展示の説明不足が課題。 2月の卒業式は参加されたご来賓、保護者、在校生が感動できるものにできた。「自分を守るために勉強は大切」など本校での学習活動に確信を持ち、主権者意識をもって堂々と巣立った。 生徒会活動のなかで、生徒たちは一人ひとりが尊重されている実感をもてるようになり、いじめの報告は0件。しかし、ネット上で悪口を掲載するなどの課題が増えた。</p> <p>(4) 帝塚山学院大学教授による「小論文講習」が好評で1年特進コースの生徒の自信と自己肯定感につながり、継続したい。大阪千代田短期大学教授による「児童文化」「実習ノート実習」は受講生が意欲的に学び、満足度が高かった。幼稚園、ほいくえんでの実演体験は意欲を高めた。</p> <p>(5) 生活指導満足度 68% 支援体制満足度 92% 毎月のハガキ連絡は、実態を保護者と共有できるが、生活習慣改善には至らず。三者面談を行うも保護者も困難を抱えておられ、来年は具体的な取り組みが必要。 ケイタイ・スマホは継続、徹底した指導が弱い。ゲームにはまっている生徒指導対策が必要。 玄関指導で服装違反は減り、地域の評価も上がってきた。校外指導では、迅速に対処することで、地域からの苦情が減るだけでなく、学校としての対応が信頼されつつある。 頭髪指導で、「再登校指導」の方針をもって指導し、全校的に頭髪違反が許されないとの認識が出来てきた。 不登校生徒に対する支援は、養護教諭、カウンセラー、学年が丁寧に対応でき、支援体制に対する満足度は高い。今後も生徒の変化、状況把握が大切。</p> <p>(6) 退学率 7% 3年全員対象の「カフェテリア形式」性講座は、自分の体を自分で守り、被害者にも加害者にもならないための正しい科学的な知識を身につけさせようと取り組み大成功。専門家や地域の方にお話を聞くことは、学校生活の意味を考えさせられるものとなった。また、学習意欲を回復していく取組が、生徒たちの「やればできる自分」「安心して学べる自分の居場所」を発見させ、退学率低下につながった。</p>

<p>キャリア教育の推進と進路実現</p>	<p>(1) 1年次からの面談を大切に する。 (2) 学力回復のためのきめ細かいサポート ア、意欲関心を引き出す工夫をする。 イ、講習、放課後の勉強会など進路に応じた指導を丁寧にする。 (3) 多様な総合・選択科目設定と実践 (4) 英検・漢検で資格取得 (5) 進路実現への道を考えさせる進路指導 ア、インターンシップや大学訪問の計画 イ、卒業生による講話 ウ、ハローワークとの連携 (6) 進路未決定者を減らす。</p>	<p>(1) 学期に一回以上の面談をする。 (2) ア、教科指導を通して、地域・社会の課題を考えさせ、視野を広げて主権者教育をすすめる。 イ、1、2年の長期休暇の講習に、「看護数学」「就職基礎数学」を計画する。3年は、個人の希望に添った進路指導充実のため体制を整える。 (3) 15人までの少人数クラス編成にしてきめ細かな指導をする。小論文指導の充実をはかる。 (4) 英検受験者数を増やし、英語科教員が級ごとに指導して合格者を増やす。 (5) ア、1年は、帝塚山学院大学、関西外国語大学、近畿大学へ訪問して進路の意識付けをする。2年は、関西福祉科学大学訪問し、何を学びたいのかを考える機会にする。また、進路ガイダンス、学問別講話、就職対策セミナーなど幅広く進路を考える取り組みをする。1、2年の看護師希望者には、看護一日体験に参加させる。 イ、現在大学生の卒業生2名に、1・2年生対象に「高校時代の経験と学ぶ大切さ」を語ってもらう。 ウ、3年生就職希望者への具体的な指導の強化 (6) 丁寧な個別指導と保護者懇談をもち昨年より進路未決定者を減らす。未決定者は、卒業後も指導し3月末まで追求する。</p>	<p>進路指導・支援体制の満足度を80% (昨年74%) 英検受験者 平均60名以上めざす 2級合格 4名 準2級合格 8名 (昨年 受験者 平均53名 合格者 2級 2名 準2級 6名) 進路未決定率 4%めざす (昨年5.6%8人)</p>	<p>進路指導・支援体制の満足度 88% (1) 各学年とも学期に一回以上の個人面談、保護者面談を実施できた。3年は、進路が決定するまで進路部が何度も会議を重ね、正しい方針をもって生徒指導でき、保護者からも感謝された。 (2) 地域や社会の課題を見つめさせ、生き方に迫る教材の工夫が、社・国・英・理・家の教科で今年も継承できた。人と関わる仕事に就きたいと考える生徒が増え、労働者の権利についても学んだ。 大学オープンキャンパス参加、ほいくえんや老健施設への体験等に取り組み、2年の生徒たちの達成感が良かった。「体験学習」を発展させる必要を考えさせられたが、1年には時期尚早で、学内に於いての準備が大切である。 (3) 今年も、就職希望者は、基礎力、コミュニケーション力、マナーなどもっと早い時期から指導することが明らかとなった。 大学・短大進学者については、公募推薦、指定校、AO入試とも一人ひとりの課題を明確にして全員決定。今年は一入センター入試で合格。学習意欲を生み出していく充実ノートや文化祭ノート、小論文指導の成果が発揮された。 (4) 英検受験者は6月60人、1月75人。2級合格者は3人、準2級10人。2級合格者は伸びなかったが、準2級合格者を増やすことができ、地道に学習を積み重ねることが大切と実感。漢字検定は演習をさせただけとなり、今後の課題。 (5) 1年文理特進は、大学進学という目標を現実的にとらえられず、10数名は主体的に学ぶ姿勢でできたが、約20名はモチベーションをあげられなかった。大学訪問の仕方や時期、行き先などさらなる工夫が必要。3年の取り組みから見えてきたことは、自らの学力を直視させ、学力回復への意欲、わかることで成長する(面白い・やればできる・学べばできるなど)という人間の発達の確信に迫ることが大切。しかも、集団的に勉強の仕方を学び合う関係を教師も一緒になって構築することが進路の勉強にも向き合える生徒を育てていくことがわかった。 2年は、7月に「職業ガイダンス」を全員で実施。進路に対して積極的に考えようとする意欲を引き出すことができた。69%が「今後も参加したい」 (6)進路未決定者は15名。(7.6%)昨年より増えた。 <進路部、学年の総括より> ・繰り返し指導していく体制が必要 ・問題意識や自己肯定感などもっと集団的に醸成されるような系統的な指導がある。 ・知識をもっと増やしながらか、「考える力」をつけることが大切 ・多様な進学先・受験方法など進路部が責任を持ってさらに研究し、学年ごとの進路指導方針を明確にする。 ・生きる目当てを育てる指導、あきらめさせない粘り強い指導が課題。(卒業することが目標になっている生徒) ・1人ひとりにさらに丁寧な指導をしようと思えば、スタッフが不足し、進路部の運営ができる人材の必要性がだされた。</p>
<p>五年一貫制看護科の充実した教育内容の創造</p>	<p>(1) シラバスの見直しと検討 ア、学習量を増やし、学習する習慣を定着させる。 イ、学内実習に於いて、厳しいルールとマナーを身につける。 ウ、メモをとる力をつける。 エ、臨地実習から学んだことを学内での学びにつなげる。 オ、普通科目の学力を伸ばす。</p>	<p>(1)ア、臨地実習前のレポートは、時間をかけてまとめさせ期日を守らせる。各学期で欠点者を出さない。 イ、実習室での服装・頭髪・靴下、看護師としての立ち居振舞を厳しく学ぶ。できていない者については学内実習には入れない。 ウ、学習内容の説明を集中して聴き取り、自分の頭で考えてメモをとる習慣をつけるため、授業を工夫する。 エ、臨地実習に向けてのオリエンテーションと実習後のカンファレンスを成功させるため、本番並みの緊張感をもたせ、グループ報告から学びあう。 オ、普通教科の欠点基準について検討する。</p>	<p>学内実習の満足度 60% 専門科目の学習 満足度60% 臨地実習の満足度 70%</p>	<p>(1) 学内実習満足度 67% 専門科目満足度 65% 臨地実習満足度 78% 2年になると「深く自分の頭で考え、理解することの大切さ」を実感できる生徒が育ってくるが、1年生は、暗記中心になりがちで、理解する勉強の大切さに気付かせる必要がある。 専門科目は難解な言葉が多く、60点以上取れず、再試を受験する生徒が多くでた。再試で合格はしたが、再試とならないよう地道な学習を要求すべき。 学内実習は、厳しいルールを守り臨地実習につながるものにできた。頭髪や忘れ物で実習できない生徒がいたが、指導後はすぐに改善。学内実習で生徒への放課後の補習は好評。学年が増えて行くにつれて実習室問題が出てくるが、計画的に活用して放課後は自由に練習させられる環境づくりが必要。 緊張しての臨地実習は、患者さんからの「ありがとう」「がんばって」の言葉に元気をもらっている。現場の看護師さんからの助言に学んだり、自ら調べたりして、寝不足になりながら努力している。本校教員との関係性を密にすることが今後の課題。 普通科目の到達点の低さは、今後の課題。</p>

<p>五年一貫制看護科の充実した教育内容の創造</p>	<p>(2)看護専攻科進級に向けた取り組み ア、「進級の手引き」作成と同時に、個人懇談・進級テスト実施。進級式を成功させるため、生徒たちの本気を引き出す。</p> <p>(3)集団活動を重視し、班行動ができるようにする。 ア、第二回戴帽式の成功 イ、臨地実習において、指導者、患者から学び、チームで互いに責任を果たせる関係をつくる練習を積む。 ウ、校外学習の企画運営と当日のグループ行動を成功させる。 エ、2年学習合宿に於いて、集団行動を学び、他者理解を深める。</p> <p>(4)将来、地域と連携した取り組みを展開していく土台を創る。</p> <p>(5)「スウェーデン海外研修」の成功</p>	<p>(2)ア、2学期早期に看護科事務、教務主任を配置。兵庫県立龍野高等学校と私立加茂暁星高等学校へ視察訪問する。 他校に負けない「進級の手引き」を作成する。本気にさせて進級させるため、全員と二者懇談をする。</p> <p>(3)ア、看護師への夢を実現していく決意の場としての戴帽式を成功させるため、LHRを活用して意義討議しみんなで決意を考える。 イ、臨地実習でのリーダーの責任を明らかにして集団行動を学ぶ。 ウ、民主的に行先を決め、現地の集団行動について考えさせて運営をさせる。 エ、合宿の意義を話し合い、1年間の積み残した課題を補う学習をする。また、他者理解を深めるためのレクレーションにも取り組む。</p> <p>(4)2年「老年看護」で、地元地域の老人会の方々と連携して授業を行い、将来の「訪問看護」を見据えた地域や社会の課題を学ぶ。</p> <p>(5)医療・看護だけでなく、文化や気候・自然の違いを学び、視野を広げ、日本との違いを理解して学習意欲につなげる。</p>	<p>看護専攻科 進級テスト 合格率 60%</p> <p>戴帽式の達成感 85% (昨年 79%)</p> <p>学習合宿満足度 80% (昨年 98%)</p> <p>海外研修満足度 90%</p>	<p>(2)視察訪問した学校から多くを学ぶ事ができた。卒業前に二者懇談をしたことで、一人ひとりの3年間のふり返りと今後の課題を明確にできて良かった。 進級テスト合格率 平均62% できなかったところの「学び直し」を春休み中の課題とした。進級後は、放課後の学習会や朝学習などの取り組みが必要。</p> <p>(3)ア、「戴帽式」は、厳粛な中で3学年がそろって行うことができ、看護師になる決意を固めることができた。戴帽を受ける生徒たちの笑顔が素晴らしいとの評価を得た。(達成感 92%) 一期生とは違い、短期間で完成させ、生徒たちの自信にもなった。 イ、臨地でのチーム行動はよく頑張っている。リーダーに集中したり、自分たちの考えや意見をまとめたりする習慣がついてきた。 ウ、行事や校外学習など、リーダーが中心となり班行動やクラス活動ができた。リーダーシップを発揮する生徒が見えたことや協力性を発揮できたことが良かった。 エ、専門科目の学習と「濃度や割合の計算」など弱点を補う合宿ができた。生徒同士の教えあいと複数の教師による指導等、学びを通して交流でき、他者理解も一歩すすんだ。(満足度100%)</p> <p>(4)昨年の2年が、地元の二つの自治会より老人会の方々を招き、お話を聞いて交流することができたが、今年度はできなかった。高齢者の方が、日々の生活のなかで何をどのように感じておられるかなどお聞きして、高齢者理解をすすめるためにも、今後も挑戦したい。</p> <p>(5)海外研修参加者は13人(満足度100%) パリでのテロ事件があり参加者が減ったが、一人ひとりの患者さんの尊厳が大切にされている現実を学ぶ事ができた。医療・看護のあり方、国としての福祉制度のあり方、高校生の自立度と優れた主体性に触発され、日本で意欲的に学ぶきっかけとなった。しかし、参加費約40万円は保護者に重くのしかかる額で、今後継承できるか難しい</p>
<p>地域貢献</p>	<p>4. 併設短期大学と連携し、地域の中で育てていただき、役割を果たし社会貢献していく学園を創造していく。</p> <p>5. クラブ活動の活性化</p>	<p>4. 高短一貫「幼児教育コース」スタートに向けて委員会を結成する。定期的に会議をもち、互いの教育の成果と課題を明らかにし、ともに地域に貢献できる取り組みを模索する。</p> <p>5. ア、オカリナ部・茶道部の自治会老人会との交流をもち。 イ、20年続いている「樟美杯バスケットボール大会」で中学校の先生との交流を、地元での発展を模索する。 ウ、運動部の指導ができるクラブ顧問の任用 エ、クラブ保障日の活用</p>	<p>クラブ員の満足度 50% (昨年 35%)</p>	<p>4. 委員会の中心になってすすめるスタッフ決定が遅れ、今年度については12月に一回目の会議をもつこととなった。高校、短大の現状を出し合う事から始め、二回目は委員会の長を決定しての会議をもち、次年度は二ヶ月に一回の会議を定例化していくことを決定。</p> <p>5. ア、二カ所の老人会では年間計画に組み入れてくださり、楽しみにしてくださっている。オカリナとコーラス発表を聞いて、「いい気持ちにさせてもらえた」と評価され、人の役に立てる経験が生徒の自信につながった。「チチンブイブイ」からの放送の依頼があるなど、オカリナ部の活動が注目されてきた。地域の方々や幼稚園の子どもたち、保護者とともに「ぞう列車合唱団」として大きな舞台で発表できたことも成長感につながった。部員が増やせないことが課題。 イ、女子バスケットボール部活性化のために、来年度、本校体育館で地元の中学校のクラブとの交流試合の計画がすすんだ。地元の中学生同士が切磋琢磨して技術を伸ばせる場を提供し、地域に開かれた学校として前進する方向ができた。 エ、クラブ保障日は他の会議など入れないことを決めてスタート。今年は保障日には、顧問がクラブについて指導するようになり、昨年より改善された。複数体制のクラブ顧問委嘱が機能しはじめた。クラブ人口を増やすためには、届け出制の「アルバイト問題」を検討していく必要がある。</p> <p><長期的な課題> ・クラブハウスの建設 ・クラブの練習場所の決定(教室配置) ・音のでる軽音楽部の練習場所の確保 新校舎になって、3年間放置したままであり、生徒からの要求も強くでている。施設、設備については財政問題も含めて検討が必要。</p>

【自己評価の結果と分析・関係者評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	関係者評価委員会からの意見
<p>●生徒の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会・文化祭・球技大会は、いずれも参加者だけの満足度は100%(みんなと一緒にとりくめない生徒は欠席しているが) 思った以上に楽しかった。応援団の先輩が優しく、カッコイイ。勉強やダンスを教えてくれて一緒に楽しくできたのが良かった。先輩のようにになりたいという目標ができた。文化祭での発表はみんな水準が高くで真剣なのが驚いた。文化祭は「面白くない」と聞いていたが、「結構面白かった。来て良かった」と好評。球技大会ではみんなとやるのが楽しく、達成感・充実感を味わえた。「楽しい学校生活」を送りたいと思う生徒、「勉強は嫌」だが学校へは休まず登校できる生徒が急増。 ・日々の復習ノートの成果はテストで結果が出て「やってよかった」という達成感と「やれば自分もできる」という自信がでてきた。毎日継続している生徒の伸びは目を見張るものがあるが、やらない生徒へのアプローチが困難。 ・授業の要求(進むのが速い・書くことが多すぎ・もっときれいに板書してほしい・プリント教材が多すぎるなど)がたくさん出された。 ・クラブ指導に顧問がもっと来てほしい、部室を作ってほしい、というクラブからの要求が強く、クラブの活性化は生徒の強い願いである。 <p>●保護者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事での子どもたちの真剣で楽しそうな姿に感動。家では見たことのない子どもの表情に出合えて良かった。苦勞されて指導されたのか、体育大会での頭髪については昨年と違って改善されていてとてもよくなった。 ・放課後の丁寧な学習指導や個人指導には頭が下がる思いである。自分の子どもは、小学校二年生から学校に行けなくなったが、自分の校区とはかけ離れたこの大阪暁光を選んできたが、最初はよく泣いていた。しかし、担任が職員室の隅で毎日勉強につきあってくれ、お弁当まで一緒に食べてくれたことが子どもの変化を生み出すきっかけになったように思う。勉強ができない自分に心が折れて続くかと心配したが、先生方はあきらめず勉強を教え続けてくれたことが大きかった。英検2級合格できるまで、学力を回復させてもらえ、学ぶ目的をしっかりと見つけて大学へ進学できた。子どもの可能性を引き出してくれる学校だと思う。 ・進路指導はとても丁寧に一人ひとりに寄り添った指導をしていただいている。自分の子どもがどんどん伸びる方向へ導いてもらって、進学意欲が出ているのが教育内容や学校評価を聞いてよくわかった。 ・授業中のケイタイやマナーという点ではもっと厳しくしてほしい。遅刻してくる子どもは学校へは入れないなど厳しくしてほしい。 ・保護者同士、保護者と教師の仲の良さが、子どもの意欲にもつながっているように思う。 <p>●教職員の自己評価・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改革提案には不安があるが、みんなの意見を聞くことができたことが改革にとって課題が明らかになって良い。今後、短大と一緒に地域からの信頼を得られる総合学園でありたい。そのためにスタッフが足りないのではないか。 ・「学力向上」のために、どう学習意欲を引き出すのかが今年も大きな悩みとなった。放課後の学習会の中で、勉強の仕方を着実に身につけてきた生徒(各学年)は、自ら学ぶように成長しているが、約70%の生徒が、テストや進路のためには勉強しても日常的に主体的に学べない。丁寧な指導なしには「学習観」が変わらない。 ・生徒会と共に取り組む行事は、毎年継承され生徒が主体的に参加し、「楽しい」と思えるものとなり発展を創り出している。日々の授業について、メモをとり積極的に学ぶ生徒と学習意欲を引き出せない生徒に分かれている。勉強の仕方が身につけていない生徒が増えている。本校のノート指導で「考える」「書くこと」ことを要求し続ける必要があるが、学習会などで丁寧に向き合い一緒に学ぶ中で力がついていく。 ・生徒たちの人間関係が大変である。日常と行事などで関係性を創ることがクラス指導で問われる。一人ひとりの自己肯定感の低さ、自己認識ができないことが課題。 ・生活指導の頭髪は、全教員が一致して指導して大きく前進した。あと一歩である。 	<p>【実施評価委員会】 2016年2月・2016年3月</p> <p>【評価委員】 葛目己恵子(樟美会) 馬場克己(青葉会) 北村健一郎(理事) 勝井ゆかり(短大) 玉崎和実(法人評議員) 新妻義輔(教育顧問) 布藤 充(PTA3年) 石原 愛(PTA1・2年) 高林美千代(1年)</p> <p>【全体的評価と今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりに先生たちが向き合っていることが良くわかる。行事の時の子どもたちの輝く瞳はとても気持ちよく、先生方も一緒になって子どもたちと体育大会を成功させようとしていて、信頼関係ができていていいと思う。 ・PTA活動は、子どもたちのためにと思って協力してきたが、親同士の関係ができ、活動が楽しくて学校に来ている。子どもにあきれられている。子育てについて悩みや喜びを共有しながら、孤独にならないで互いに「頑張ろう」思える学校だ。それは、子どもたちの現実を学校側から率直に報告いただいているので、子どもたちの成長する姿や「子どもをどう見るか」から学びながら、子どもも保護者も先生も成長する教育になっている。この校風はなくさないでいつまでも1人ひとりを大切に教育に誇りをもって指導してほしい。 ・進路指導については感心している。しかし、高校で三年間学んで進路を決めずに卒業させるのはいかなものか。いろいろご家庭にも事情があるでしょうが、高等学校の目標として進路保障のための指導を強化すべきではないか。 ・制服やマナーの指導はもっと厳しくしてほしい。地域の悪い風評を聞のはつらいものである。頭髪や服装指導をもっと強めなければ、正しく評価されないので頑張してほしい。 ・短大の先生の授業が高校でできていると聞いて、嬉しく思う。もっと早くから高大連携を考えていくべきで、短大が河内長野の地元でプロを排出していることを活かした連携を進めてほしい。 ・「卒業式」は本当に感動的である。三年間、大阪暁光高校で学んでの変化成長が素直に語られ、シュプレ(構成詩)となっている。会場に存在する人たちが共感できる中身で涙した。私の子どもの時もこう成長するのかと楽しみになった。 ・看護科に入れずに普通科に入った生徒が、「看護師になる」と綴った作文は心に響く作品で、弱さを認める強さ、弱い人間の中に宿る気高さ、失敗と挫折から立ち上がり、目標に向かって新たな一歩を踏み出す勇気など表現されていて感動的だった。暁光高校も輝くためには外に向かって、中の先生に向かって「そうだ、自分たちは行けるんだ」「やっぱり暁光はやるね」と言われるために、看護科は国家試験で90~100%の合格者を出して見せる、これをやり切ることが大事であると思う。 ・教育は人である。先生も職員も謙虚に学び続ける姿勢なしには成長しない。先生たちは素直で善い人が多い。他の教員の指導に対して遠慮して口を出さない、厳しく言えば内輪の甘さを感じる。お互いを高めていくには、お互いに意見を言い、目標に向かって夢のある話をする必要がある。 ・やっとな今年、頭髪については「カンフル剤」的な指導を、先生方が丁寧にやっている。「いつまでにちゃんとしてきなさい」と指導し、できていない時は「では、いつまでか」と迫り、それもできなければ最後は、教室には入れない、家に帰してでもきっちりさせよう、という指導がやれるようになってきて、変化を感じる。 ・一人の生徒のことを「あの子、今なんとかしてあげないと、このまま放っておいたらどうなるかわかれへんよ」と言って、教科担当が担任に声をかけ、すぐに先生方が集まって職員室や会議で相談できる、そんな教師集団、同僚性をこれからも大切にしてほしい。

--	--